　　　　　　　　INAZOサミット　開催趣意書 　　　　 2017.7.25

新渡戸稲造は、明治から昭和初期にかけて青年や学生に深い人格的感化を与えた教育者・国際人でしたが、今、混とんとする21世紀を生きる私たちにも、その業績から学ぶ事柄が数多くあると思います。日本国内ばかりでなく、広く海外でも多くの地域で幅広い活動を行い、今もその功績は髙く評価されて語り継がれています。

「**INAZOサミット**」開催の目的は、新渡戸稲造とメリー夫人、及び新渡戸家の業績を再確認して顕彰し、縁（ゆかり）の地のネットワーク形成を促し、個々の活動の相乗効果を発信する試みです。この数年、日本各地で関わりのある方々との意見交換に基づき、今回、それらを地域の繋がりで「見える化」し、さらに新たな気づきを得る場を「**INAZOサミット**」として、縁のある土地の持ち回りで開催することと致しました。

動植物に生命の継承があり、地域社会に歴史の継承があり、人の成育プロセスに精神の継承があります。体験を積み上げ、視座を拡大しながら時代にかかわることは容易ではありませんが、道は険しくとも志を同じくする多くの方々とともにあるべき方向を見つめて活動していきたいと決意しています。

「**INAZOサミット**」の企画が、自由な環境の中で、参加される方々が互いに開かれて創発しあう場になることを期待し、そうしたことを大切にしながら未来の地域・世界を切り拓く活動として、共に歩むきっかけとなることを希望しています。

世話人　（2017.７.2５現在）

一般財団法人 新渡戸基金　常務理事　藤井茂

一般社団法人 新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会　代表理事　秋山孝二